

# Sincerity①

## 藤の房吹かるるほどになりけり (三橋鷹女)

高等学校体育大会相馬地区大会が始まる5月11日の早朝、散歩に出かけました。晴れ渡る空の下、朝の清々しい空気を吸いながら、いつものコースを回ってきました。途中、中村城址にある妙見中村神社と相馬神社に立ち寄り、生徒たちの活躍を祈願しました。その甲斐もあり(?)、多くの部活動が県大会出場を決めました。本丸御殿跡にある藤棚の花も、生徒たちの活躍を見守るかのように、風に揺れながら咲いていました。6月から始まる県大会での生徒たちの活躍が楽しみです。風薫る春の到来に誘われ、新任地でも「校長通信」を発行することといたしました。名称は本校の校訓である「至誠」の英訳“Sincerity”を使用します。今後は紙面を通して、私の日々の思いを伝え、学校を紹介したいと考えています。



中村城址本丸御殿跡の藤棚

## Your efforts now are a gift to your future self.

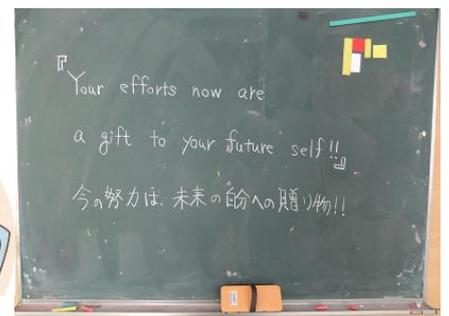
私の日課の一つは、一日一回、授業中の校舎を巡回し、生徒たちの様子を見ることです。出張で学校を不在にする場合を除き、ほぼ毎日続けています。廊下を通ると先生方の熱のこもった声が聞こえてきます。クラスによっては生徒たちの声が聞こえてくる時があり、教室を覗いてみると、生徒たちがペアやグループになって互いに対話しながら学習している姿も見られます。本校でもアクティブ・ラーニング型の授業を開始して3年目に入ります。年度当初、先生方にはアクティブ・ラーニング型の授業に取り組み、「主体的対話的な深い学び」の実践をお願いしました。すでに教室や校舎のあちこちに「ラーニングピラミッド」が掲示しており、先生方の意識の高さに感心しました。私も手持ちの参考図書を先生方に利用していただくため、学校に持参しライブラリーコーナーを設置してもらいました。

ところで、校舎2階の第2メディアコーナーの黒板に記されていた英文を紹介します。

「Your efforts now are a gift to your future self!!」おそらく、生徒たちに向けたメッセージであり、激励の意味が込められていることは間違いありません。英文の下には「今の努力は未来の自分への贈り物!!」と訳が記されていました。誰しも学校の授業や受験勉強に意味が見い出せず、やる気を失ってしまいそうになる経験があると思います。なかなか結果が出ない時はなおさらです。しかし、だからといって努力を中断してしまえば、何も残りません。目標達成のために努力を継続することが成功への道であり、たとえ努力が実らなくても、その時の努力は必ずその人を鍛え、心を耕し、将来の成功へと導いてくれるはずですよ。その意味で努力は未来の贈り物に他ならないでしょう。

## 有朋自遠方来、不亦楽乎

大学時代の友人が、10連休の土日を利用して、東京から相馬に遊びに来てくれました。本校の校舎や講堂を案内したり、吹奏楽部の定期演奏会を見てもらったりして、相馬高校をPRしました。また、神社仏閣や城郭巡りの好きな彼らを、日本百名城の一つである中村城址や、14世紀の建武年間に創建された涼ヶ岡八幡神社に案内し、大変喜んでくれました。着任して間もない私も、相馬の歴史や文化の魅力を再認識でき有意義な休日となりました。夜は蒲庭温泉にある蒲庭館に一泊しました。旅館の前には「蘇峰園」と呼ばれる庭園が広がっており、昭和初期に徳富蘇峰が夫妻で来館した際、庭からの眺めの美しさをことのほか気に入り、名付けたとのことでした。先日、「相中相高百年史」に目を通していたところ、昭和13年11月29日に蘇峰会相馬支部の発会式が本校講堂で行われ、夫妻が来校した記述を見つけました。さらに当時の「教務日誌」を調べると、5月来校予定が蘇峰の都合で一度中止になっていたこと、蘇峰会相馬支部の会員は550名にのぼったこと、旧制相馬中学の4・5年生全員が傍聴したことがわかりました。明治から昭和初期にかけて日本の言論界を代表するジャーナリストの来相に、おそらく相馬の町も沸き返っていたのではないのでしょうか。目を閉じれば、講堂が聴衆の熱気に包まれている光景が浮かんでくるようです。



## 明確な目標と家庭学習

4月18日に実施した**進路希望調査**の結果がまとまりました（詳細は5月15日発行の「進路だより」参照）。それを見ていて気になることが二つありました。

一つ目は家庭学習時間です。1・2年生の平日の平均学習時間が2時間を切っています。1年生は家庭学習を習慣化しなければならない時期です。「PTA会報」でも良い習慣を身に付けることの大切さを述べましたが、1年生はまさにその時です。また、2年生は平日と休日ともに一年次より少なくなっています。2年生は学力を積み上げる絶好の時期です。この時期の蓄積が3年次の学習を支えると言っても過言ではありません。2年生には中堅学年の中だるみを克服し、**家庭における学習時間の確保に努めて欲しい**と思います。

2つ目は1・2年生の進学希望者で志望校が未定の生徒が多いことです。その数は1年生が進学希望者の約47%、2年生が約31%になります。進学はしたいけれど、志望校が決まっていない生徒が多いのは気になります。なぜならば、志望校が決まっていない場合、何を目標に学習すればいいのでしょうか？それはあたかも目的地不明のまま航海に出た船と同じではないかと思うのです。今の時点で構わないので、志望校を複数選んで欲しい。分からなければ情報を集める。インターネット、受験雑誌もあります。進路指導室に行けば情報源がたくさんあります。自分はどのような分野に興味関心があるのか、将来どのような仕事をしたいのか等々、自分の心と向き合い、志望校を決めてください。その際、目標は高く設定すること。**明確な目標設定こそが学習の原動力となるのです。**

## 同窓生列伝①折笠晴秀（1885-1965） 「秩父宮雍仁親王の侍医となった同窓生」

現在の南相馬市小高区に生まれ、明治31年福島県第四尋常中学校に入学、明治36年、福島県立相馬中学校を卒業しました。卒業生総代として読んだ格調高い答辞は、現在、1階OBラウンジのガラスケースに飾られています。旧制第一高等学校を経て東京帝国大学医科を卒業し、細菌学教室・皮膚泌尿器科教室で研究生活後、順天堂病院等に勤務。その後、昭和4年に開業しました。日本泌尿器病学会の権威であり、昭和23年からは秩父宮雍仁親王の侍医を努めています。また、昭和14年から23年まで馬陵会初代会長も務めました。旧制相馬中学第一期卒業の伝説的秀才として知られ、東京帝大医科を首席で卒業しました。旧制一高の学生の時、病氣療養のため郷里に戻っていた時に描いた水彩画を収録した画集が刊行されています。

## 馬城会仙台支部・原町支部総会に出席しました

馬城会支部総会が4月20日に仙台支部、5月7日に原町支部で行われ、奥村晃三会長と共に出席しました。私からは着任のご挨拶と学校の近況を報告し、同窓生の皆様と楽しい一時を過ごさせていただきました。原町支部総会が行われた5月7日は本校の創立記念日です。本校は明治31（1898）年のこの日、福島県第四尋常中学校として始業式を行い、授業を開始しました。私たちは創立120年の歴史と伝統を継承し、時代の変化に対応しながら、121年目の新たな歴史を刻むこととなります。



## 距離の短縮がもたらすもの

4月23日に行われた**若駒強歩大会**では、生徒たちと一緒に歩いてみました。昭和57（1982）年から行われている伝統行事です。当日は朝から雲一つない快晴で、汗ばむくらいの陽気の中、学校から山上のコンビニまで約4キロを歩きました。歩きながら考えていたのは、福島と相馬を行き来する際の昔の苦勞でした。福島市に自宅がある私にとって、相馬は近くて遠い町でした。福島・相馬間は直線距離で約40キロですが、二つの町を結ぶ国道115号線は難所続きでした。福島と相馬の間には阿武隈山地が横たわり、アップダウンが激しく、しかも道幅が狭いカーブが連続しており、九十九折り道さえありました。ドライバーにはストレスの多い道ばかり。相馬は幼い頃、数年に一度、海水浴に来るくらいで、私にとってあまり縁のない町であったというのが正直なところ。しかし、東北中央自動車道が霊山と山上間で開通した今、走行距離と時間が短縮され、格段に運転が楽になりました。私の相馬高校への異動が決まり、引き継ぎに相馬を訪れた時は、余りの快適さに本当に驚きました。現在、延伸工事が進められ、常磐自動車道と東北自動車道に接続するのにもう少しです。距離の短縮は確実に心の短縮にも繋がっていることを肌で感じています。

